

## ■資料 1: フラウンホーファー研究機構／フラウンホーファーIPA の概要

### (1) フラウンホーファー研究機構の概要

組織名	Fraunhofer-Gesellschaft（フラウンホーファー研究機構）
所在地	ドイツ／ミュンヘン
設立	1949 年
代表	Bullinger 理事長
年間研究予算 (2009 年度)	約 16 億ユーロ
職員数	約 17,000 人
業種	応用研究機関
事業内容	先端材料・部材、マイクロエレクトロニクス、ナノテクノロジー、再生可能エネルギー、情報・コミュニケーション、メディカルエンジニアリング、表面技術・フォトニクス、ロボット、建築、交通・ロジスティクス、防衛・安全保障など、多岐にわたる先端技術分野で実用化を目指す欧州最大の応用研究機関。生産技術・オートメーション研究所(IPA)のほか、音楽データ圧縮技術 MP3 を開発した集積回路研究所(IIS)など、ドイツ国内に合計 59 の研究所と 20 余りの研究ユニットがあり、海外では米国に 7 研究所と、日本、中国、韓国、インドネシア、中東に代表部を設置している。

### (2) フラウンホーファーIPA(生産技術・オートメーション研究所)の概要

組織名	Fraunhofer IPA（フラウンホーファー生産技術・オートメーション研究所）
所在地	ドイツ／シュトゥットガルト
設立	1959 年
代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Prof. Dr..estkaemper(ヴェストケンパー所長)</li> <li>※シュトゥットガルト大学教授を兼任</li> <li>・Prof. Dr.Verl(フェアル所長)</li> <li>※シュトゥットガルト大学教授を兼任</li> </ul>
年間研究予算 (2009 年度)	約 3,700 万ユーロ

職員数	約 600 名
業種	応用研究機関
事業内容	<p>集積回路研究所 (IIS) に次ぐ、フラウンホーファー最大級の研究所。</p> <p>研究テーマは、(1)コーポレートマネジメント、(2)生産技術(オートメーション)、(3)表面技術。</p> <p>大阪センター(仮称)のプロジェクト責任者 Mr.Kolaric(コラリッチ)は、(3)表面技術の機能性材料プロセスエンジニアリング部門長で、日本国内の研究機関、大学、企業とカーボンナノチューブに関する共同研究を推進中である。</p>